

# 第1回「2025年デフリンピック大会開催に向けた 準備運営体制に関する検討会」 議事次第

日 時：令和4年11月22日14時00分～

場 所：東京都庁第二本庁舎31階

特別会議室21

- 1 挨拶
- 2 検討会の目的
- 3 2025年デフリンピック大会の概要
- 4 大会の準備運営体制の確立に向けて
- 5 意見交換

# 「2025年デフリンピック大会開催に向けた 準備運営体制に関する検討会」について

## 1 目的

日本で初めてのデフリンピック大会を成功に導くため、多様な関係者がどのように連携協力していくかについての議論・検討を進めることを目的とする。

## 2 検討項目(案)

- ・ 開催により期待されること
- ・ 大会に向けた準備運営体制 など

## 3 構成員

- ・ 久松 三二 一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事・事務局長
- ・ 渡邊 知秀 東京都生活文化スポーツ局 次長
- ・ 靱井 圭子 公益財団法人日本オリンピック委員会 常務理事
- ・ 藤原 正樹 公益財団法人日本パラスポーツ協会 常務理事
- ・ スポーツ庁 (オブザーバー)
- ・ 三好 豊 弁護士
- ・ 中村 友理香 公認会計士

## 4 会議運営

- ・ 事務局は全日本ろうあ連盟及び東京都で対応する。
- ・ 検討会の開催はプレスリリースを行う。検討会は冒頭公開とし、会議資料及び会議概要は全日本ろうあ連盟及び東京都のHPで公表する。

## 三好 豊（みよし ゆたか）

森・濱田松本法律事務所 パートナー弁護士

### ■主な資格

弁護士（日本国、米国ニューヨーク州）

### ■主な活動（抄）

公益財団法人日本サッカー協会 常務理事（法務委員長）（現）

国際サッカー連盟ガバナンス監査コンプライアンス委員会 委員（現）

## 中村 友理香（なかむら ゆりか）

中村公認会計士事務所 / 税理士法人舞 副所長

### ■主な資格

公認会計士、税理士、社会保険労務士、AFP

### ■主な活動（抄）

独立行政法人自動車技術総合機構 監事

埼玉県社会福祉法人認可等及び介護老人保健施設等審査委員会 委員（現）

埼玉県地方独立行政法人埼玉県立病院機構評価委員会 委員（現）

日本公認会計士協会公会計協議会 委員（現）

日本公認会計士協会埼玉会公益法人等専門委員会 委員長（現）

# デフリンピックについて

## 1 デフリンピック大会の概要

- 国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会
- 第1回は、1924年フランスのパリで開催
- 2025年大会は、デフリンピック100周年の記念すべき大会
- 大会の特徴は、次のとおり
  - ・ 裸耳状態での聴力損失が55デシベル以上で、定められた出場条件を満たした選手が出場資格を有する
  - ・ 競技は一般（健聴者）の競技ルールに準拠
  - ・ 競技会場、試合中は補聴器等の装着を禁止
  - ・ 手話の他、スタートランプや旗等を利用した視覚による情報保障が必要

## 2 2025年デフリンピック大会の概要

招致主体：一般財団法人 全日本ろうあ連盟

主催：国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）

日程：2025年11月15日～26日（12日間）

競技数：21競技（陸上、水泳、卓球など。詳細は、次頁参照）

競技会場：主に都内会場、サッカーは福島県、自転車は静岡県で実施予定

選手数：70～80か国・地域、約3,000人

競技会場案 (2025 デフリンピック大会ビジョン ((一財)全日本ろうあ連盟スポーツ委員会作成))

競技名等	競技会場
開閉会式	駒沢オリンピック公園総合運動場
陸上	駒沢オリンピック公園総合運動場
サッカー	J ヴィレッジ (福島県)
卓球	東京体育館
バレーボール	府中市立郷土の森総合体育館
バスケットボール	大田区総合体育館
ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場
バドミントン	武蔵野の森総合スポーツプラザ
レスリング (フリースタイル)	駒沢オリンピック公園総合運動場
レスリング (グレコローマン)	駒沢オリンピック公園総合運動場
空手	東京武道館
柔道	東京武道館
テコンドー	キリンレモン スポーツセンター (中野区立総合体育館)
水泳	東京体育館
テニス	有明テニスの森
ビーチバレー	大森東水辺スポーツ広場
自転車競技 (ロード)	日本サイクルスポーツセンター (静岡県)
自転車競技 (MTB)	日本サイクルスポーツセンター (静岡県)
ボウリング	東大和グランドボウル
ゴルフ	若洲ゴルフリンクス
オリエンテーリング	伊豆大島
射撃	10m・25m：警視庁術科センター 50m：調整中

## 東京で2025年デフリンピック大会を開催する意義

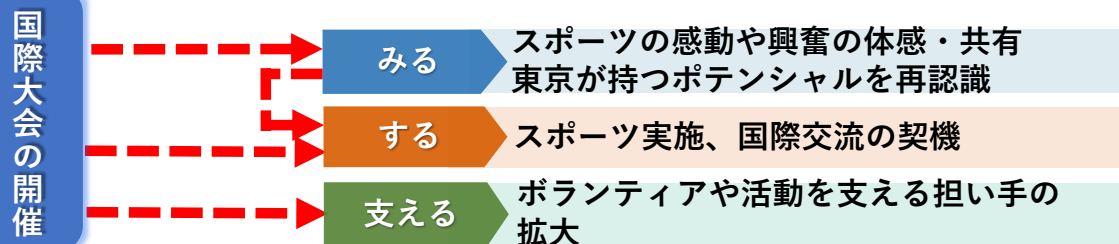
### ①東京2020大会のレガシー

- 東京2020大会は、史上初の延期・無観客での開催という困難を乗り越え、都民・国民をはじめ関係者の皆様の協力を得て、安全に開催
- 東京2020大会を通じ、スポーツ施設の整備などのハード面が充実するとともに、ボランティアの活躍といったソフト面のレガシーも多く芽生えた
- また、都は東京2020大会開催に直接関わり、関係者の連携体制づくり、宿泊・輸送や会場運営等のオペレーションなど国際スポーツ大会の準備・運営に必要なノウハウを蓄積

### ②2025年デフリンピック大会の東京開催のメリット・効果

- デフアスリートが活躍する姿は、ろう者やろう文化への理解を深め、人々の交流を促進するとともに、大会開催を通じて、スポーツの一層の振興を図り、障害の有無に関わらずスポーツを楽しむ機会を生み出すことができる
- また、関係者が一体となって、大会の準備・運営を行うことで、ろう者との相互理解が進み、バリアのない共生社会実現への弾みとなる

#### <スポーツへの効果>



#### <社会への効果>

- 
- ✓スポーツ、パラスポーツ全体の振興
  - ✓人材育成、子供の学びの機会
  - ✓東京の魅力発信
  - ✓共生社会の実現

# 2025年デフリンピック大会開催に係る考え方

## ①2025年デフリンピック大会への都の考え方

- 開催に当たっては、適切な大会準備・運営や東京2020大会レガシーの一層の発展のため、東京2020大会で培った経験やノウハウを最大限活用
- 限られた期間内に、デフリンピック大会の準備を着実に進めるためには、関係者が密接に連携し、しっかりとした準備運営体制を構築する必要
- また、大会の準備運営体制において、コンプライアンス等が確保され、都民・国民の信頼が得られることが重要

## ②2025年デフリンピック大会の準備運営体制の確立に向けて（案）

### <課題>

- 日本で初のデフリンピック大会開催であり、デフスポーツの競技団体による国際大会の開催経験が少ないこと
- デフリンピックは、総合国際スポーツ大会であり、21競技を同時開催する必要があること
- 大会開催まで残り3年を切っており、準備期間が限られていること

# 2025年デフリンピック大会開催に係る考え方

## <大会の準備・運営体制の方向性>

- 大会の準備運営については、関係者が力を合わせて、連携協力しながら、デフリンピック大会にふさわしい準備運営体制を構築していく必要があるのではないか
  - 大会の成功のためには、多様な関係者が協力し、ともに大会を作り上げていくことが重要ではないか
  - 全日本ろうあ連盟、都、国、JOC、JPSAが、連携協力し、各種調整を行う場が必要ではないか
  - 競技運営に関し、デフリンピックNFとJOC・JSPO・JPSA加盟の競技団体との連携協力が必要ではないか
- 大会までの期間が短いことから、これまでに蓄積されている国際スポーツ大会における運営ノウハウや、競技団体・会場所有者との協力関係を活用するなど、効率的な準備が必要ではないか
- コンプライアンス等が確保された準備運営体制とする必要があるのではないか